

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成30年4月発行 NO-65

地域リハ支援センター

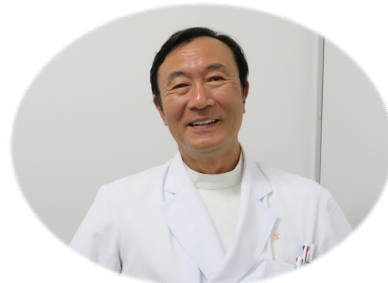
平成30年度

地域リハビリテーション支援センターの活動に向けて

今年は春の訪れを告げる桜の開花が早く、ここ七沢では新緑の輝きが毎日に増しております。当地域リハビリテーション支援センターも平成30年度を迎え、昨年の活動状況の振り返りと新年度へ向けての研修計画を作成しました。昨年は国や県が取り組む包括ケアシステムの構築に、いかに幅を持たせ懐の深いシステム作り念頭に研修事業を行いました。リハビリテーションが病院や福祉施設の中に留まらず地域社会の中で根付いてゆくことが肝要です。包括ケアシステムの一方の担い手である支援する専門職の研修の充実、それを見守り時に手を差し伸べてくれる地域住民の理解、一歩でも自立をめざし日々リハビリテーションの実践をされる障がい児者と家族の取り組み、地域社会の人々の健康を維持し見守る病院や行政機関が一体となって取り組んでいることが神奈川県内で感じられます。前回のリハビリテーション・ケアフォーラムでは災害時のリハビリテーションをテーマに開催し、実際に災害時に活動された方々の体験を通して、災害時には何が必要なかを考えることが出来ました。また、災害時にはこれら地域住民の一体感が危機を乗り越えるため必要なことも熊本地震など近年の災害から学び取ることができました。

この春には新しい神奈川県地域リハビリテーション連携指針が改定され県のホームページでご覧になれます。それぞれの地域に生活される人々が豊かで安心して過ごせる“街づくり”とそれを支える地域住民の“絆(きずな)”を大切に、リハビリテーションを通して、地域支援室と高次脳機能障害支援室共々、すそ野の広い地域社会づくりに寄与できるよう努めてまいりたいと思います。

(地域リハビリテーション支援センター所長 村井 政夫)



地域支援室



高次脳機能障害支援室

地域支援室

リハビリテーション専門相談 ～地域支援の最前線に立つ支援者への後方支援～

地域リハ支援センターで相談を受けるようになってから1年が経過しました。今まで対応していた相談とは異なり、詳しく知らなかった疾患名等もあり、当初は戸惑っていましたが、ようやく馴染んで来たように感じています。

以下は、昨年度のリハ専門相談のうち、新規相談の128件の主な内容になります。

- ① 障害別は、脳性麻痺（23件 18%）、神経・筋疾患（23件 18%）、脳血管障害（21件 16.4%）、加齢・切断等（13件 10.2%）、脊髄損傷（12件 9.4%）、知的障害（12件 9.4%）。
- ② 相談依頼元としては、本人家族（33件 25.8%）（※本人家族から相談があった場合には、介入している地域内の支援者と連絡を取り、支援ニーズを確認して、地域内の支援者とともに支援を行う二次的支援の形をとっています）、障害者相談支援事業所（27件 21.1%）、医療機関（15件 11.7%）。
- ③ 相談内容では、補装具・福祉機器（37件 28.9%）、支援内容の検討（27件 21.1%）、医療面（15件 11.7%）身体機能評価（14件 10.9%）、でした。

「疾患や病状の進行、あるいは加齢に伴い機能低下をきたしたので、補装具（コミュニケーション機器

を含む）活用や福祉機器導入、身体機能評価を踏まえて支援方法・内容や生活環境を再検討したい」といった相談が多いようです（この中には、知的障害の方の加齢に伴う機能低下の相談も含まれています）。あるいは、ご本人の思いやニーズに対して、障害福祉の相談支援専門員の方の知識や説明だけでは不十分な面があり「専門的な視点からの助言が欲しい」という依頼もあります。私たちも最新の情報を提供できるように、日々情報収集にも心がけています。

地域リハビリテーション支援センターは、地域で生活する当事者とご家族への支援の最前線に立っている支援者を、後方的に支援する立場にあります。お気軽にご相談いただければと思います。
(瀧澤 学)



平成29年度障害別、依頼元別総件数


障害別相談件数	件数	構成比
脳血管障害	68	22.5%
脳性麻痺	64	21.2%
神経・筋疾患	38	12.6%
脊髄損傷	34	11.3%
後天性脳損傷(CVA以外)	30	9.9%
知的障害	30	9.9%
骨関節疾患	16	5.3%
脊髄疾患	8	2.6%
内部疾患	0	0.0%
その他(切断・加齢等)	14	4.6%
合計	302	100.0%


相談依頼元	相談件数	件数	構成比
障害者相談事業所		86	28.4%
障害者施設		50	16.6%
本人家族		47	15.6%
居宅介護支援事業所		36	11.9%
病院		19	6.3%
市町村		17	5.6%
教育機関		13	4.3%
訪問看護事業所		10	3.3%
地域包括		7	2.3%
その他		6	2.0%
保健福祉事務所		5	1.7%
高齢者施設		5	1.7%
障害者更生相談所		1	0.3%
訪問介護事業所		0	0.0%
合計		302	100.0%

今年度も企画多数! 30年度リハビリテーション専門研修

地域リハビリテーション支援センターの研修は、医療・介護・福祉などの多職種が共に勉強することができ、研修を通じて相互の理解が深まるように工夫しています。また講義だけでなく、実習やグループワークなど様々な形態で、主体的な学びをサポートします。内容も多種多様で、今年度も新しい研修を企画しております。日頃の臨床に役立つ研修だと思っておりますので、日程や研修の内容をご確認の上ぜひご参加ください。開催日の約2か月前から募集を開始しております。皆様の参加をお待ちしています。日頃の臨床での困りごとのヒントになる内容があるかもしれませんよ。 (一木愛子)

◆研修計画◆

研修の詳細・お申込みはこちらをクリック 

地域リハ支援センター 

No.	研修名	開催月日	対象職種	会場	
1	セラピストのためのハンドリング入門	平成30年5月19日(土)	PT・OT	神奈川リハ病院	
2	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	5月29日(火)	医療職・福祉職・介護職など	神奈川リハ病院	
3	脳血管障害の評価と治療	6月2日(土)	PT・OT	神奈川リハ病院	
4	股関節症のリハビリテーション	6月9日(土)	PT・OTなど	神奈川リハ病院	
5	知的障害の方の身体機能低下への対応	6月20日(水)、27日(水)	施設職員など	神奈川リハ病院	
6	(新)脳血管障害のリハビリテーション	ADL編	7月4日(水)	OT・PTなど	神奈川リハ病院
7	高次脳機能障害セミナー	小児編	7月14日(土)	教育・医療・福祉関係者など	おださがプラザ
8	脊髄損傷のリハビリテーション	理解編	7月18日(水)	医療職・介護職など	神奈川リハ病院
9	PT・OTのための土曜教室	7月~11月の土曜日 月1回開催	PT・OT	神奈川リハ病院	
10	高次脳機能障害セミナー	理解編	8月25日(土)	限定なし	県総合医療会館
11	視覚障害のある方への支援	9月11日(火)	医療職・福祉職・介護職など	神奈川リハ病院	
12	住宅改造・改修セミナー	9月22日(土)	医療職・ケアマネ・建築関係者など	神奈川リハ病院	
13	排泄ケアの知識と実践	10月10日(水)	医療職・福祉職・介護職など	神奈川リハ病院	
14	褥瘡予防セミナー	10月16日(火)	医療職・福祉職・介護職など	神奈川リハ病院	
15	(新)からだにやさしい介助入門1	基礎編	11月7日(水)	介護職・福祉職など	神奈川リハ病院
16	(新)からだにやさしい介助入門2	移動編	11月21日(水)	介護職・福祉職など	神奈川リハ病院
17	(新)からだにやさしい介助入門3	ADL編	12月5日(水)	介護職・福祉職など	神奈川リハ病院
18	脊髄損傷のリハビリテーション	実務編	11月17日(土)	看護師・PT・OTなど	神奈川リハ病院
19	高次脳機能障害セミナー	実務編	12月1日(土)	医療職・福祉職など	厚木シティプラザ
20	高次脳機能障害セミナー	就労支援編	平成31年1月19日(土)	医療職・福祉職など	おださがプラザ
21	車椅子シーティングの理論と実際	1月26日(土)	医療職・福祉職・介護職など	神奈川リハ病院	
22	かながわりハビリテーション・ケアフォーラム	2月2日(土)	限定なし	横浜情報文化センター	
23	義肢装具セミナー	2月16日(土)	PO・OT・一般・エンジニアなど	神奈川リハ病院	

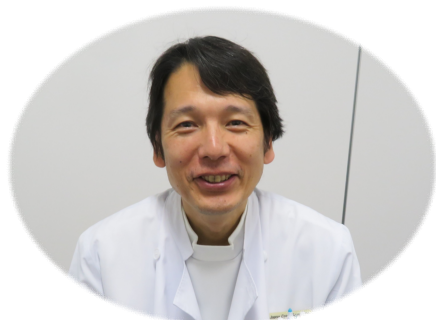
◆お問い合わせ(平日/8:30~17:15)◆

電話) 046-249-2602

担当: 小泉・一木

高次機能障害支援室

英国における高次脳機能障害のリハ事情 -神経心理学的リハについて-



2017年3月から1年間、英国のThe Oliver Zangwill Centre (OZC) という施設に滞在し、当地のリハについて学ぶ機会を得ました。この施設は1996年に設立され、後天性脳損傷者（脳外傷者等が構成の中心となっており、日本で言う高次脳機能障害者とかかなり近い言葉です）に対するリハを行っている専門機関です。主に外来患者に対してのリハを臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士が中心となって実施している施設で、また論文、刊行物、インターネット情報などの多くの情報発信がなされています。世界

中から高次脳機能障害リハのスター達が気が向くとふらっと遊びに来る、そんなところでもありました。

この滞在での最大の成果は、「神経心理学的リハ」に長期間触れ、その理解を深めることができたことでした。神経心理学的リハとは何か？従来のリハは「一つの症状に対して一つの訓練を行う」というモデルで考えることが多いのですが、脳外傷等は複数の症状が複雑に絡み合うためにこのモデルでは限界があります。そこで欧米では、この約30年の間に、包括的、全人的、多職種間アプローチをキーワードとする新しい神経心理学的リハを発展させてきました。神経心理学的リハは従来のモデルとは全く異なる概念になったと言っても過言ではなく、かつこの進化は現在も進行形で進んでいます。この経緯は日本にも一部紹介がされてきたところではありますが、実際にその実践に触れてみるとまだまだ理解が足りなかったのだということを実感させられました。神経心理学的リハを一言で言うことはなかなか難しく、詳細を述べるには紙面の限界がありますが、このリハを今後日本でも具現化するために、日本のシステムや文化に合うようにアレンジしていく作業が必要であると考えています。また、このリハでは「自分とは何か、どう生きるか」というテーマが大きな命題となります。地域生活や就労など、社会との関わりは切り離して考えることのできない重要な要素であり、神経心理学的リハにおける地域支援のあり方もまた、（世界と共に）議論をしていかないとならないところです。

（高次脳機能障害支援室長 青木 重陽）



編集後記：新年度が始まりました。花粉症の猛威もそろそろ終わり、やっと過ごしやすい季節になりました。毎年恒例「支援センター農園」では夏に向けて何を育てようか考え中です。今年も豊作になりますように！ 地域リハも少しずつでも花が咲き、実がなるように、研修、リハ専門相談など地域に貢献したいと思います。

今年度もよろしくお願ひいたします。 （砂川 久美子）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601